

平成25年12月23日(月)
第7回流域治水シンポジウム

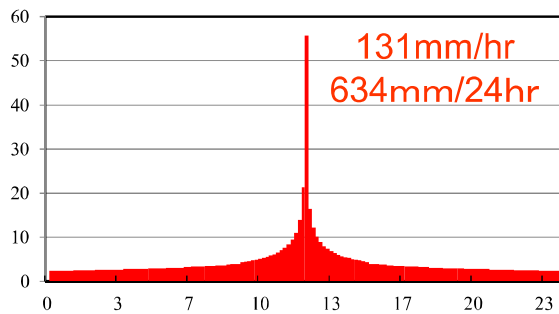
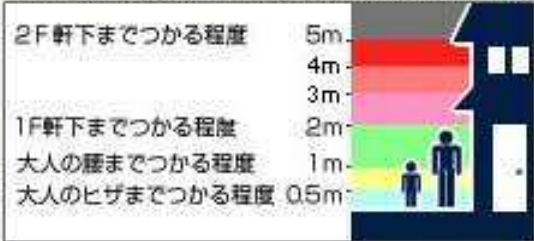
水害に強い葛巻町を目指して

～東近江市葛巻町の取り組み～

葛巻町周辺の最大浸水深図 (地先の安全度マップ 200年確率降雨)



大雨が降った場合に想定される浸水深さ



葛巻町でのこれまでの取り組み

＜水害に強い地域づくり協議会＞

- 平成21年度～23年度：日野川中流左岸地区WG
西横関から葛巻町の住民らによるWGを実施
- 平成23年度～25年度：葛巻町WG（モデル集落）
葛巻町の住民らによるWGを実施

葛巻町でのこれまでの取り組み

- 平成22年2月1日：聞き取り調査
水害経験者10名への聞き取り
- 平成22年7月4日：出前講座
水害経験の伝承、水害リスクの把握等
- 平成23年2月13日：図上訓練
水害時の避難に関する課題抽出
- 平成21~23年度：簡易量水標・周知看板の設置
水位観測所と日野川橋との水位関連付け等

葛巻町でのこれまでの取り組み

- 平成24年度：まるごとまちごとハザードマップ設置
昭和34年伊勢湾台風の浸水実績・
地先の安全度200年確率の浸水深を電柱に表示
- 平成24年10月21日、平成25年10月20日：
水害を想定した避難訓練を実施

⇒平成25年9月台風18号では120名を超える
住民が自主避難を実施

聞き取り調査

被害経験と備える知恵 (東近江市葛巻)



伝承・言い伝え



撮影:流域治水政策室

【水点】

伊勢湾台風の水位痕が残っている。

▼葛巻のそのほかの伝承・言い伝え

- ・切石
- ・受け堤
- ・東沢砂川
- ・法教寺川右岸堤防
- ・霞堤
- ・石垣
- ・避難判断の目安場所
- ・堤防の見廻り



出前講座

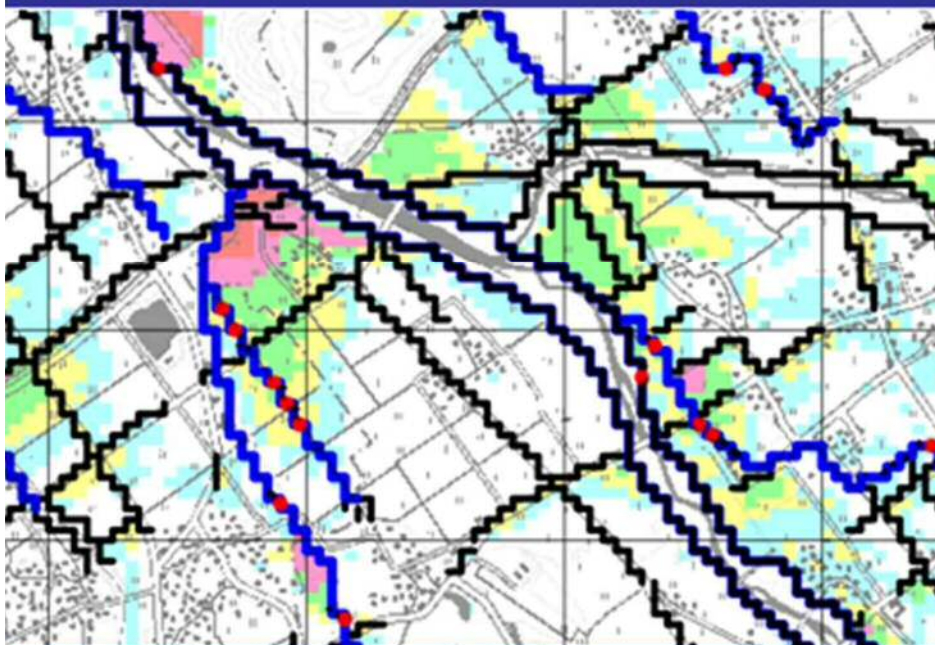


避難の際のポイント

- 車での避難は控える
- 運動靴と杖、ロープ
- 避難の時は隣に声かけ
- 普段から避難経路や避難場所を確認
- 逃げ遅れたら近くの高い建物に退避



葛巻周辺の浸水状況(15時間後)



図上訓練

被災地から学ぶ(ビデオ:水害発生その時)



真中夜間時等における情報伝達および高齢者等の避難支援について



避難訓練の実施・看板デザインの 住民による投票



平成24年10月の避難訓練

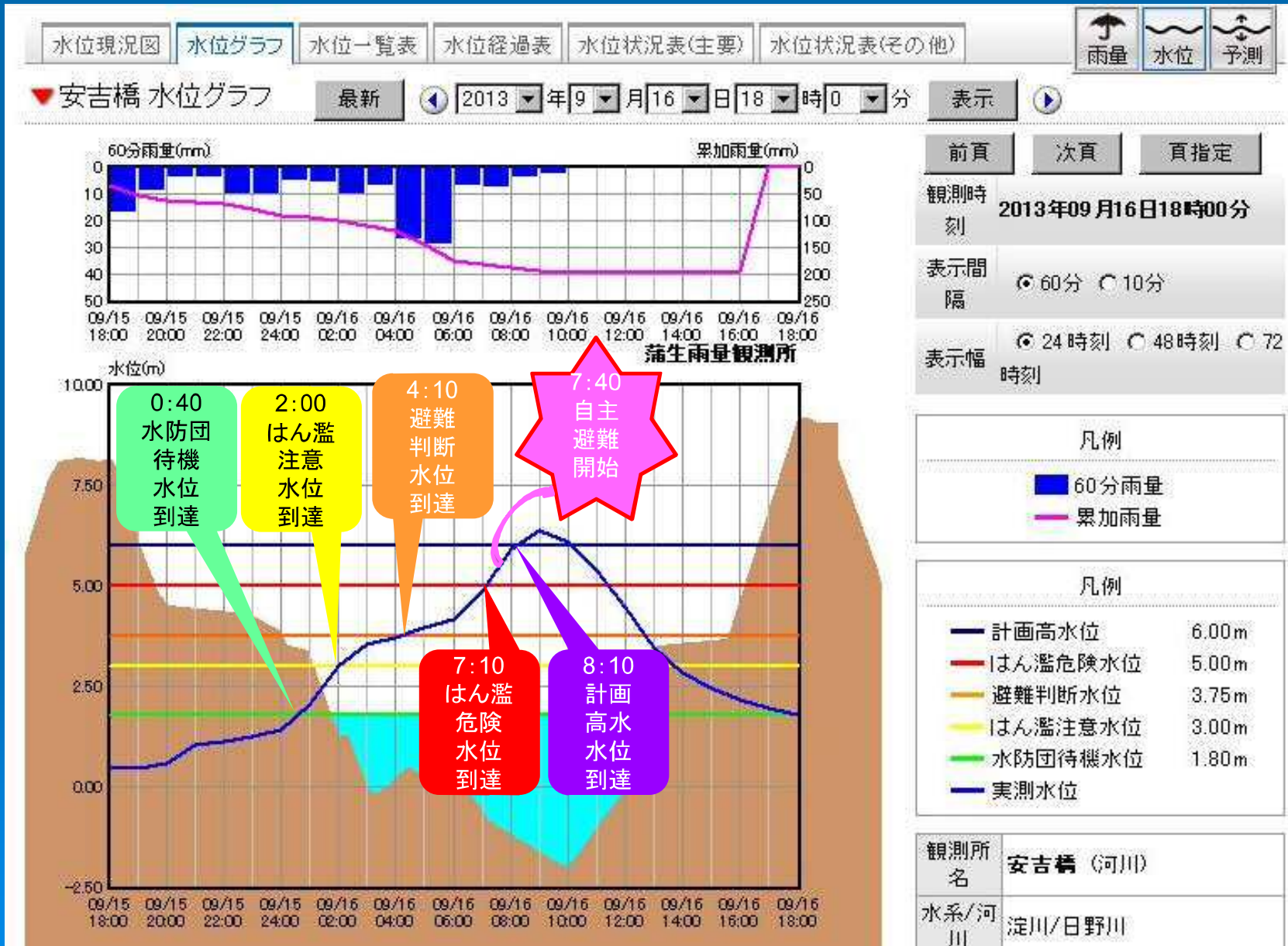


看板デザインの投票

設置された看板



平成25年9月台風18号時の対応



法教寺川で越水を確認(9月16日7:00ごろ)

蒲生北小学校への自主避難を開始(7:40ごろ)



消防署周辺の浸水状況(7:40ごろ)



土のう袋を手配し、
土のうづくりを開始（8:50ごろ）

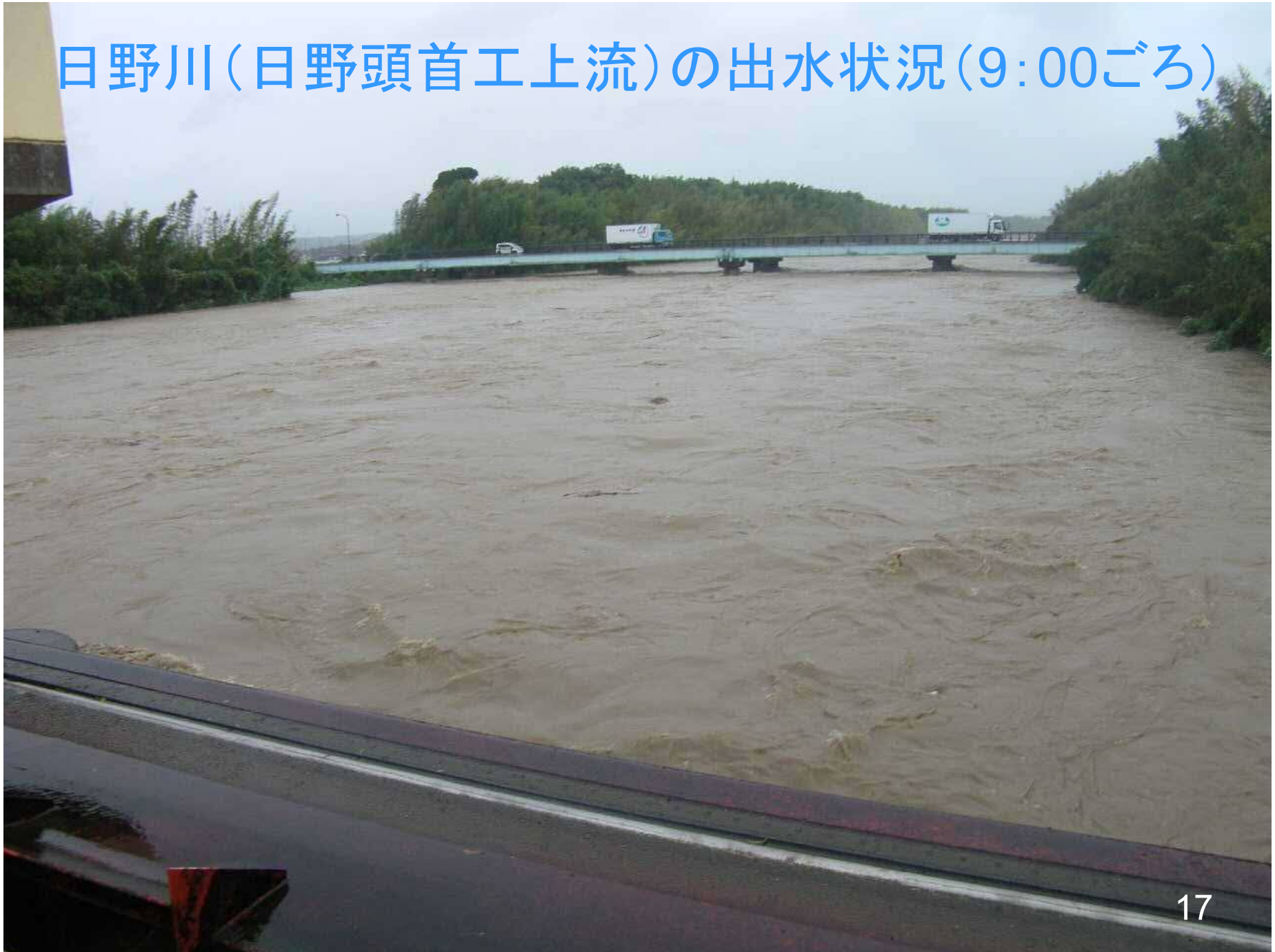


越水箇所への土のう積みの状況



2013/09/16 09:14

日野川(日野頭首工上流)の出水状況(9:00ごろ)



平成25年9月台風18号時の課題

	課 題 点	対応 部署	実現度
1	日曜日・休日のために避難誘導や現地本部の設置などがスムーズに行うことが出来た方だ。		
2	平日なら若い人が不在で、その折の避難はどうすれば良いのか。		
3	平日、少ない役員で今回の様に守ること(対峙すること)が出来ただろうか		
4	土嚢を袋を入れる者、現場まで運ぶ者、運ぶ車など自主的に行われた。		
5	その他のところでは流失物の除去に要する者がなかった。		
6	土嚢の土がなかった。草の根広場の土をトラクターで削って土嚢に詰めた。		
7	はたして土嚢の土置き場として適地だろうか?日野川の堤防が切れたなら土嚢詰めの方は流されてしまう。		
8	体の不自由な方を運ぶ車や運転手等が確保されていたとは思えない。役割が決まっていなかった。		
9	大水の時や暴風雨の時でも仕事に出勤しなくてはならない。会社の(緊急)出動態勢に組み込まれていて避難なんて出来ない。		
10	日野川ダムは治水ダムであるが、その上流にある蔵王ダムは利水ダム。幸い蔵王ダムは水が少なく流出に至ることがなかった。		
11	土嚢が少なく50枚しかなくてコメリへ買いに行った。土嚢袋や砂などの備蓄が必要だ。		
12	市、避難先の北小学校などと連携した避難訓練が必要だ。		
13	市の避難情報は葛巻町の状況把握をしていなかったように思われる。		
14	堤防から越水していることを市等に連絡出来ていなかった。市に対して何時頃に自主避難の連絡を行ったのか。		
15	テレビのデータ放送(河川の水位情報やレーダー雨量)などから情報を各戸では得ていたのだろうか。		
16	避難指示が適切に行われたか。住民への連絡体制はどうだったか?		
17	防災連絡体制に組長と自警団の兼任により組によっては連絡を取るのが遅くなりスムーズに避難されなかった。		
18	避難準備や避難指示の電話を、より多くの家に架ける必要なのに相手の方から色々聞かれて一軒ずつ架けるのに大変時間が係った。		
19	電話の文言を予め決めておくべきだった。例えば避難準備だと「避難できる用意して二階など高いところへ上がってもらうように」と		
20	緊急放送をCATVの音声告知端末を使用して行ったが加入していない家もあり防災無線の活用等が図れないものか。		
21	避難の一斉放送がされたため、その時点で避難の連絡を途中で止めた。		
22	メール等による伝達も考えられるのではないか。		
23	車での避難は安全だったのか。台風の折の避難は自動車の避難で良いのでは。日野川が切れていた折には車で行けないかも。		

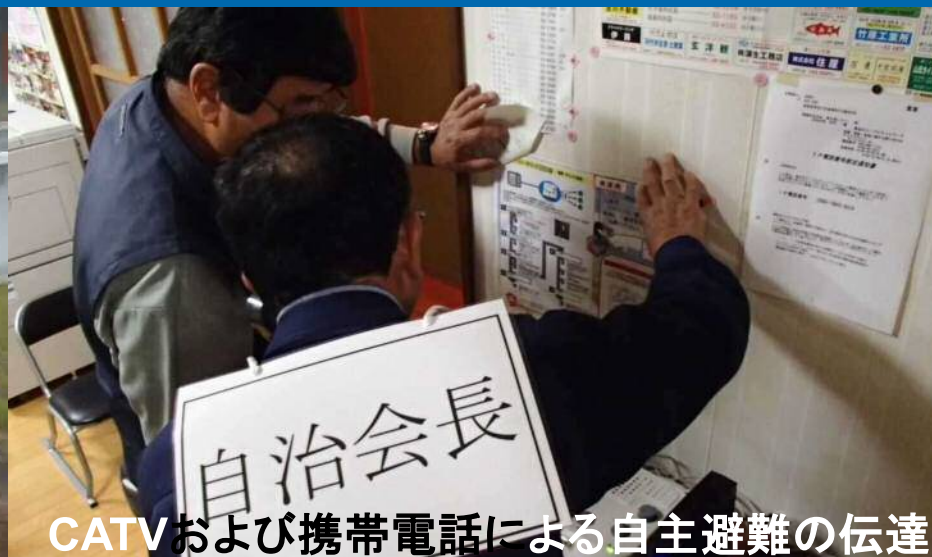
■「台風18号対応の振り返り」で出た主な意見■

- 土のう袋が少なく、コメリへ買いに行った。
- 小学校の鍵は八日市で管理されている。支所で管理すべきではないか。(避難所にすぐ入れなかった)
- 避難所に必要な道具、食糧等の備蓄が必要。要援護者への配慮も必要。
- 車での避難は安全か。(日野川が切れて北小までいけない場合はどうするか、北小までは遠い)
- 避難を呼びかけても、「2階でよい」「家に大事なものがある」という思いから避難を行わない住民がいた。一方で早めの避難判断にたいして批判の声はなかった。
- 市と連携した避難訓練が必要。

台風18号時の対応を踏まえた 避難訓練の実施



自警団によるパトロール



CATVおよび携帯電話による自主避難の伝達



一時避難場所本部の設置



台風18号の状況報告

今後の予定(案)

- 平成26年1月
避難訓練の振り返り
- 平成26年3月～
避難訓練マニュアルの更新
自主避難ルールの明確化